

■ 設立総会議事録

- 1人の城主がまちを作って行く時代ではない。市民の多くの意見を聞きながら、市民が熱をもって取り組む必要がある。ただ活動の熱を広げる難しさ、重要さを感じるところもある。
- ソフト面、取り組む姿勢、人材の育成の見直しが必要。地域の縛りがきつすぎる。大学卒業者を受け入れる会社の体制ができていない。地域としてできないと一定の教育を受けたものが出て行ってしまう。地域、企業それぞれ掘り下げて考える必要がある。
- 中町を立ち上げる際の議論として観光対応のまちづくり、また浜町地区との連携が上がっていたが、中々進んでいない。現在は、地域の役に立てる商店街として活動しているが、この議論が最後のチャンスではないか。
- 色々な人の意見を聞くことも必要だが、リーダーを作っていくことが大切ではないか。
- 個々の事業者、個人は自分のことで精いっぱい。地域に目を向ける余裕がない。
- 大学へ進学し、Uターンで宮津に戻って来ない
→地域が疲弊している中で、親も「あきらめ」の気持ちを持っている。
- 個々では出来ないことでも皆で取り組めばなんとかなる。
- 市が事業を進める時には、結果だけが報告される。経過も含めて説明してもらわないとわからない。(市の進め方全般の話)
- 浜町の再開発用地は20年間空地となっており、開発の余地がある。
- 過去については否定することから始まる。浜町についてもいかに子や孫に一生懸命やったと言える人が何人集まれ、やれるか。公設市場や海の活用(海の駅) 島崎公園の活用も考えなければならない。
どこに何が必要か。ただの芝生では税収もあがらない。商いも考えながら、楽しんでもらう場所も必要。市民だけでなく、外から来た人も同じような扱えるスペースとしたい。

■ 第二回会議事録

- 近年、宮津市からの人口流出が増加している。働く場所の減少と共に人口も減少し消費も落ち込んでいるのが現状
宮津市には自然、歴史など多くの魅力がある。それらを中心に交流人口を増やし
→定住、観光客増→消費増という好循環を作っていかなければならない
- 自分達の仕事に誇りを持ち次世代に受け継いでいかなければならないかつその仕事に魅力を感じてもらわなければいけない。

- 働く場所がなく、生活基盤（公共料金など）の料金が他地域にくらべ高いため定住が難しい。若者が希望を持てるまちづくりをしていきたい
- 少子高齢化はどの地方でも避けられない問題。産業を育て交流人口の増加を！
観光客の方に魅力ある商品、施設がないのではないかな？
空き家を無料で明け渡す施策も検討
- 宮津の魅力！食、魚などをもっとアピールするのはどうか？
市場の運営を誰が仕切るのか考えてほしい。観光客目線での営業をしていただきたい
- 海外の観光客も少しずつ増えてきている。市民には当たり前だが魚、野菜のおいしさをアピールし、PRにもっと力をいれてはどうだろうか
- 市街地の活性化。外国人観光客目線の標識などの整備
- 京都縦貫道の開通を来年の三月に控え、これからもっとスピード感を持つべき。地域の受け入れ体制ができていないのではないかな？案内板の設置や市民の意識向上など。体験を通して学び 心と体に残るものはどうだろうか
- 道の駅を活用した街づくり。ちくわ、かまぼこ等が海を見ながら食べられる小さなお店が集まる街並み。行政、市民の意識の一体化。空き店舗の活用や若手の育成に注力すべきではないか
- 市全体での意識向上が必須。（観光客、市民の）受け入れ体制を意識することが重要。交流、定住人口の増加を目指す
- 心の受け入れ体制の充実（ソフト面）
- 自然などの宮津市の魅力！住んでよし、訪れてよしにしていかなければならない。もっとPRに力をいれるべきではないか

■要点

対象エリア・・・まちなか（宮津市街地）

期間・・・三年程度で「見える化」できる事業計画

ポイント・・・地域資源（食、自然、体験等）を活用し、交流人口の増加を目指す

- ・市街地を天橋立と連動した観光地へ
- ・ソフト、ハード両面での受け入れ体制の強化
- ・PR活動の強化

過去に策定された計画

計画名称	策定主体	エリア	ビジョン	基本戦略
宮津まちなか観光推進プラン 策定：平成21年3月	宮津まちなか観光推進協議会	・浜町周辺 ・市街地	浜町地区周辺に魅力ある集客施設を整備し、まちなかのにぎわいを創出する基盤、体制を整え、まちなかへの 観光誘客促進 によって滞在型観光への転換を図る	○ 地産の食材や物産を提供する集客施設 の整備 ○ 歴史文化、伝統的行事 の維持・継承 ○新たな特産品開発とPR ○食のブランド認定制度の確立と情報発信 ○ まちなか観光の回遊性 の検討 ○町屋、空き店舗の活用
宮津マルシェアクションプログラム 策定：平成24年度	市	・浜町周辺	宮津・丹後の食と物販を通じて丹後観光の玄関口となる集客施設の整備。及び 交流人口増加 による中心市街地の活性化（期間：4カ年）	○ 集客施設 の整備・運営 ○ビクターセンターとしての機能整備 ○24H無料駐車場、トイレの整備 ○浜町周辺地域の賑わい創出 ○ 周辺への回遊性 の創出 ○天橋立との相乗効果によるまちなかへの観光誘客推進、地域経済の活性化
宮津産業ビジョン 策定：平成17年度	宮津産業ビジョン推進特別委員会	・浜町周辺 ・市街地	地元産品を活かして交流産業を推進し、中心市街地の活性化と 交流人口の増加 を目指す。「住みよく、暮らしたい街宮津」	○ 文化遺産・景観 の保存 ○ まちなか観光の情報発信・交流拠点施設 の整備 ○食のブランド化、PR ○新たな特産品の開発と販路開拓 ○ まちなか観光の回遊性 創出 ○ウォーターフロントの活用検討
宮津産業ビジョンⅡ 策定：平成25年3月		・市内	将来のビジネスチャンスに繋がる分野の推進・育成を行っていく（期間：5カ年）	○少子高齢化社会に対応したコンパクトなまちづくりの推進 ○農商工観連携による協力体制の強化と情報発信 ○海洋資源開発（次世代エネルギー）推進 ○異業種ビジネスマッチングの創出
北前船港町・城下町まちづくり構想 策定：平成25年度	北前船まちづくり委員会 (市民協働のWS)	・湾岸地域 ・市街地	北前船寄港地として賑わった歴史を活かし、 来訪者が楽しめる仕組みや仕掛けの構築 （期間：10カ年）	○ 浜町地区を観光拠点 に ⇒天橋立、伊根と結びつける「海の駅」 ○ウォーターフロントを活かした「海床」「地海鮮食堂」 ○北前船を使った土産物づくり ○宮津湾周遊クルーズによる海の活用

※「海の京都」・・・北部地域の観光振興策。宮津地域では天橋立と文珠、府中地区の交通インフラ、海上航路の整備を行い観光サービス業の創出を行う。

H26.7月には宮津～伊根航路が開通予定。

※「京都縦貫、若狭自動車道開通」・・・平成26年度には縦貫道の全面開通が予定され、府内外からのアクセスが飛躍的にアップする。それに伴い北部地域への観光客の増加が見込まれる。

※こちらの資料に関しては、宮津まちづくり会議の「地域資源を活用し、交流人口を増やしていくことによる地域活性化」という方向性を基に協議していき内容を各計画より抜粋して掲載させていただきました。

まちづくりのスローガン及びコンセプト設定について

目指す方向

「地域資源」を活用し、「交流人口」を増加させることによる
地域活性化

地域の強み

- ・北前船寄港地としてにぎわった旧花街
- ・丹後地域の中核都市として栄え、人と物が行き交ったまち
- ・天橋立を臨む港町
- ・品格あるまちなみの城下町
- ・丹後観光の活動拠点(玄関口)
- ・丹後の特産品が集まる商業地
- ・細川ガラシャが幸せな時を過ごした地
- ・海、山、大地の恵みによる豊かな暮らし
- ・干物や練製品など伝統的水産加工業群
- ・気さくで元気なおかあさんがたくさん住む など



スローガン(案)

- 地域資源(海、山、大地の恵み)を最大限に活用した商業地
- 北前船寄港地としての港町風情を活かして、「まちなか」を天橋立と連携した観光地へ



市街地及び浜町周辺の まちづくりのコンセプト設定

コンセプトのたたき台（参考）

- 細川家の食卓（素材 or 台所）。旬の献上品市場 まちなか宮津
- ガラシャの食卓。まちなか宮津
- まちなか宮津は細川家の台所
- ガラシャが愛した旬の献上品街
- 橋立だけが宮津じゃない。まちなかが旬の産直百貨店
- 橋立ばかりじゃない。旬の味覚が広がるまちなか宮津
- 橋立じゃない宮津。まちなかで見つかる海の旬
- ピンと笑顔が迎える海と大地の百貨街
- まちなかが旬。ハレの味わい散策路
- まちじゅうが丹後の産直市場
- 海の幸豊かな丹後の台所
- 食とロマンの玉手箱
- 海城（宮津城）、海運（北前船）、海の幸
- 北前船の街宮津海でつなぐ天橋立
- 海の回廊でつなぐ 宮津から天橋立

- 虹の海がつなく 宮津から天橋立
- 北前船の街 宮津
- 海の京都を楽しむ街 宮津
- 天の架け橋へ続く宿場町
- 満足な旬感！食の王国・みなとまち
- 北前の風が運んだ潮の香りと旬の味覚 ～天橋立を望む旬感市場
- 天橋都宮津 海の幸と人の倅
- 丹後の食と歴史の玄関口
- 海から授かる 鮮彩な食

まちづくり会議での取り組みイメージ

スローガン

- ・北前船寄港地としての港町風情を活かして、「まちなか」を天橋立と連携した観光地へ
- ・地域資源（海、山、大地の恵み）を最大限に活用した商業地

視 点

港町を蘇らせる

歴史・文化・資源を活かす

柱立て

ウォーターフロントの再構築

他地域とのネットワーク化

歴史的町並みの利用・活用

食を活かした魅力づくり

事業等

- ・浜町再開発
- ・朝市の活用
- ・海岸エリアのあり方
- ・宮津港整備
- ・

- ・航路整備
- ・交通ハブ機能
- ・循環バス
- ・

- ・町屋の商業利用促進
- ・景観まちづくり
- ・

- ・食と物産の拠点整備
- ・特産品開発
- ・

連携 ▲ 海の京都

連携 ▲ 農水商工観連携会議

推進体制

まちづくりの各事業を具体的に進める推進体制の構築

アウトプット

交流人口の増加による地域活性化

商業振興、新たな店舗立地

まちなか再生に向けたイメージ

資料 4-2



今後の進め方について

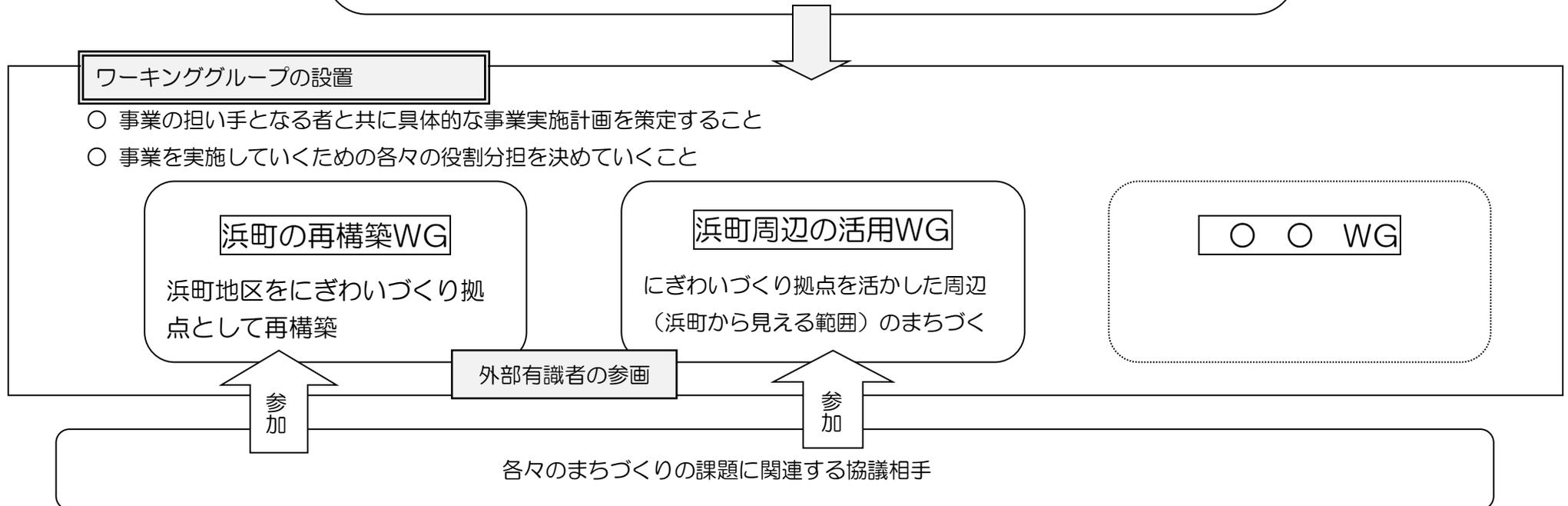
- リード事業（浜町周辺をにぎわいづくり拠点へ）についてはワーキンググループを設置
→ 関係事業者等と共に具体的実施プランの構築に着手
- リード事業以外の「まちづくり」に必要な取組についても、同時並行で協議 → 必要に応じてワーキンググループを設置

【宮津まちづくり会議】

全体の方針決定、新たな事業展開の企画などを実施

【委員の役割】

- 住民と共にまちづくりを行っていくためのリーダー
- ワーキングリーダーとなり、具体的な計画立案、各プレイヤーの役割分担を決定



今後の協議等のスケジュール（見込み）

■ 目標：3年程度で浜町周辺の活用の形をつくっていく

